

令和5年度 園評価・園外部評価書

園名	北条東すみれこども園
----	------------

1. 教育保育目標

◎自立する	◎自立したうえで社会と調和して暮らす	◎どんな時でも希望を見出す力を育む
-------	--------------------	-------------------

2. 本年度の重点目標

自分らしさを発揮し、主体的に生活する子どもを目指して

3. 自己評価結果(達成状況)【A:達成している B:概ね達成している C:あまり達成していない D:達成していない】

評価の観点	評価項目(取組内容)	評価	自己評価・改善の方策
園 運 営	○職員の資質向上 ・実践的指導力の向上 ・計画性のある研修の実施 ○園務分掌の適切な機能と責任体制の整備	C	・園の職員みんなが同じ価値観になるためにどうしたら良いかを考えていったが、まだまだ難しい。実際に観ることができる公開保育は、大きな学びや、刺激がある。来年度は見学の回数も増やし、情報共有しながら、みんなで同じ方向を目指して保育・教育ができるようにしていきたい。自園でも公開保育を開催し、資質向上をめざしたい。 ・来年度はいろいろな立場や、テーマに沿って職員の話し合う体制を整え、頻繁にコミュニケーションがとれるようにする。 ・意欲的に興味のある研修に参加している職員が多かった。その内容を職員会議の場以外でも伝えあう姿も見られ、保育・教育の奥深さを感じながら学ぶことを楽しんでいただろうと思う。
教 育 課 程	○興味や関心に基づいた直接的な体験が得られる生活の工夫 ○友達と育ちあうことができる生活の工夫 ○子どもの主体性を大切にしている指導 ○子ども一人一人の発達の特徴を踏まえた指導方法の工夫	A	・乳児クラスは日課を崩さず丁寧な育児ができた。 ・乳児クラスの行事を見直し、子どもの負担になるものはなく、普段の園での様子を感じながら親子で楽しめる行事を土曜日に行った。幼児クラスも同様に、見栄えよりも子どもの思いを大切にしたい行事になるように考えた。 ・「自分も他者も大切にしている心」を育てるために子どもが安心して過ごせる居場所づくり、自己発揮できる充実した遊び環境を今後も検討していく。 ・発達を促す環境(身丈に合った椅子とテーブルや玩具)は徐々に整えている。
子 育 て 支 援	○「親と子の育ち合いの場」としての役割や機能の充実 ・未就園児や保護者への園庭開放 ・子育て相談、講座等の開催 ○預かり保育の実施	B	・園庭開放や子育てひろばを開催しているが利用人数は少なく、また同じ人の利用が多い。園の事をもっと知っていたら、利用しやすくなるように、「移動動物園」等のイベントを早めに周知し興味を持ってもらえるようにする。 ・次年度も保護者向けの講演会を行い、子育てについて啓蒙をはかっていく。 ・未就園児親子に向けて、こども園ウィークだけでなく、随時見学を受け付けたことにより、園の生活や大切にしていること等を個別に伝える機会が持てた。
安 全 管 理 保 健 管 理	○園舎の安全安心確保 ・園舎や遊具の安全点検及び管理 ○職員の安全管理能力の向上 ・危機管理マニュアルの周知徹底と活用 ・防犯、防災訓練の実施 ○交通安全指導の推進 ○健康観察、疾病予防、健康診断の実施	B	・給食に異物が混入したことや、職員がやけどを負い、給食を急遽代替え食に変えたことは、その日に保護者の方に説明と改善策を入れてお詫びの手紙を出した。また、事故が起きた時に職員間で情報共有にタイムラグがあったことを反省し、今後直ぐに、担任だけでも招集し情報共有、意見を出し合えるようにすることにした。 ・災害研修だけでは、非常災害時の実際の職員の動きが分からないので、講師の先生のお力を借りながら、来年度は私立のこども園の代表で非常災害時訓練を自園で実施することにした。
道 徳 ・ 人 権 教 育	○子どもの体験や経験を通じた人権意識や道徳性の芽生えの育成 ・命の大切さに触れる体験の重視 ・思いやりの心を育む環境の工夫 ・豊かな感性、様々な気付きを育む環境の工夫	B	・保育者がモデルであるということを常に意識する。また、子どもを子どもとして観るのではなく、「一人の人格」として認め関わっていくように努める。 ・年長児がお祭りに小さい子を招待したり、異年齢で散歩に行くなど、交流ができるようにしたが、もう少し機会を増やせる工夫をしていきたい。模索中。
特 別 支 援 教 育	○一人一人の特性や発達課題に応じた支援 ○専門医療、教育機関との連携 ○途切れない支援の推進 ・家庭との連携 ・小学校との連携	A	・コーディネーターや障害児リーダーが中心となり、支援児担当者会議を行い、日頃の保育の振り返りを行う。また、その内容を職員会議等でとりあげ、全職員共通理解のもと一貫した支援が行えるように努めていきたい。 ・特性に対する対応の仕方、行事の参加の仕方等十分話し合い、保護者の気持ちに寄り添ったサポートを心掛ける。
家 庭 ・ 地 域 他 校 種 と の 連 携	○信頼される園づくり ・情報の発信・受診 ・園行事への積極的な参加の推進 ○地域の特性に根ざした園づくり ・教育資源の活動(文化・人材・施設・自然) ○小・中との連携 ・互いの学びとなる計画的な交流	B	・地域の方へ向けたコンサートを計画し、職員がビラ配りを行ったり、ポスター貼りを依頼することで、少しは地域を知ることができた。けれど、開催場所が善防こども園ということもあってか、地域の参加者はなかった。来年度は自園で開催し、コミュニティの場としても活用していただけるような園にしていきたい。 ・今年度、小学校と話し合う時間が持たなかった。来年度は近隣園と共に、小学校との交流計画をたてていきたい。また災害時のきょうだいの引渡しなど小学校と一緒に考えていけたらと思う。 ・「保育実習と実習指導の現状と課題」研修に参加し、来年度はマニュアルを作成して園としてどのように指導し、また寄り添っていくか考えていく。

4. 自己評価方法の適切さについての学校関係者評価

・適切である ・保護者アンケートだけでなく、職員アンケートをとってみるのも良いかと思う。 ・評価基準が主観的になっているので、客観的な基準があればより良いと思う。

5. 評価の観点ごとの関係者評価

園自己評価結果及び改善の方法の適切さについての評価
・前年度(1年目)の経験・反省に立ってうえて、今年度は、更に取り組みを進めておられると感じる。その中で、より多くの「課題」が見つかる2年目はむしろ難しさがあったのではないかと思う。自己評価「C」は厳しめと思うが、より良い運営を目指すのが故の、評価と認識している。職員の資質向上や相互のコミュニケーション、情報共有は、保育・園運営の根幹であると思うので、地道に継続して行ってほしい。 ・昨年度は「B」評価だった。本年度の「C」評価は厳しい。アンケート結果を見ると、園や職員は子どもと保護者から信頼されている。それは、職員が足並みを揃えて熱心に支援・指導を行っているからである。園の一層の発展の為に、改善の方策が着実に実行されることを期待する。価値観を同じにするのは難しい。同じ方向を目指していれば良いのではないか。 ・機会あることに研修や講座に参加し、いろんな知識を得ることは良い。また他のこども園見学も良い。
・いくつかの行事を見させていただいたが、その中でも、子どもたちの「日常」「意思」を大切に考え、尊重し、心の負担をかけない保育を目指しておられるのを感じた。保護者の中には、旧園や他園との比較の中で、違いを感じられる方もあるだろうが、園としての想いを伝えることで理解と安心につながると思う。教育方針、理念はぶれることなく、今の想いを継続して行ってほしい。 ・発達段階や地域性を踏まえて細かく教育課程を編成し、実践している。様々な体験やわらべ歌を取り入れた活動など、特色ある取り組みができていて、評価はAで良い。子どもの思いを大切にしている行事を計画、実施しているところも高く評価する。 ・園児一人一人の自主性を尊重し、好奇心を持ち積極的に行動するように。
・乳児クラスなどは、特に不安が大きい保護者も少なくないと思う。その思いに寄り添った取り組みをされていると感じる。保護者としては知ることが安心と信頼につながる。保護者向け講演会など色々な機会を設けることも「サービスの一つ」と考えて、保護者同士がつながりを増やすことが、親子の成長とより良い園生活につながるのではないかと感じる。 ・園だよりは行事予定を知らせるだけでなく、園での活動状況や子育てのアドバイスが掲載されていて内容が充実している。保護者のアンケート結果を見て、「保護者の悩みや相談に親身に答えているか」の回答は高評価である。「よいコネット」の記事が少ないという意見が複数あるので、評価はBでもよいが私の意見としてはAが妥当である。子育て広場の取り組みもよい。 ・改善策のように保護者向けの講演、来てもらいやすい講演内容、イベントが必要。
・安心・安全についてはより難しい時代になってきたと思う。考えればキリがないぐらいだろうが、「想定外」の自体も「想定内」になるよう、普段からの意識と職員間の意識共有・情報共有・マニュアルの策定、徹底は行ってほしい。 ・給食の異物混入はショッキングな出来事で、対応が大変だったと思う。防止に努めるのは当然だが、いくら気をつけても事故が発生することはある。今回の件を機会に事故が発生した時の対応について共通理解を図ってほしい。セキュリティカメラの設置など、防犯や事故防止に努めている点は高く評価する。 ・改善策のように情報共有はすぐ行えるように。自園での災害時訓練は必要である。訓練体験しているのとしていないのでは全く違う。しておけば実際起こった時の行動が上手いく。 ・運動会は2日間に分けたほうが時間に余裕ができ、安全に行えるのでは。
・植物や生物への興味は、子どもの心の成長にとって大事なことだと思う。特に、現在の小学校では動物の世話をすることが校内では無くなってきているので、貴重な経験だと思う。 ・たて割り活動もまた、こども達同士、心を寄せあういい機会であると思うので、いい形を模索しながら継続して行ってほしい。 ・人・動物との関わりや、様々な経験を通して豊かな心や人権意識を育てようとしているのは良いと思う。子どもを「一人の人格」として認め、子どもの思いを大切にしようとしている点は素晴らしい。評価はAでもよい。 ・異年齢での関わりは良いと思う。
・より専門的な知識や理解が必要な分野であると思うので、職員間での研修やコミュニケーション等、情報共有を積極的・主体的に行っておられることは評価したい。同時に保護者との意思疎通を密にし、あたたかい支援体制をさらに構築して行ってほしい。 ・全職員の共通理解のもと、一貫した支援を行っている。子どもに寄り添った適切な支援ができていて評価はAで良い。どのような場で、どのような支援を行うのかを保護者とも共通理解を図る必要があるが、その点は左記の文や保護者アンケートからは分からない。 ・よく研修され進められている。
・地域との連携については、計画が必要な項目であり、すぐに成果として現れにくいものでもあると思うが、園の想いを継続していくことで方針や独自性が形成され、保護者にも伝わり、そして地域の理解へとつながっていくと思う。子ども・職員に負担がかからない範囲で、情報発信する機会を広げてほしい。 ・個人的には、園行事に地域住民を招待する必要はないと考える。ここでいう地域連携とは、地域にある公共施設や農園の活用、地域人材を招いての体験教室の実施などだと思う。小学校との交流が少ないようなので、充実させたいものだ。評価はBでよい。昨年出された改善策が実施されたとは言いがたい。 ・改善策のように、自園でのイベントは保護者の参加が見込める。 ・災害時のことを考え小学校との連携は必要。